

万協フローア 着脱式支持脚ADW・ADN・ADY

施工要領書

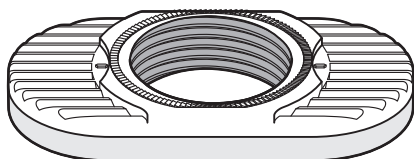
1 はじめに

このたびは弊社二重床をご採用いただきありがとうございます。
製品の特性を十分に生かし、安全で美しい仕上がり施工して頂くために
本書をよく読み、正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。

2 施工工具一覧

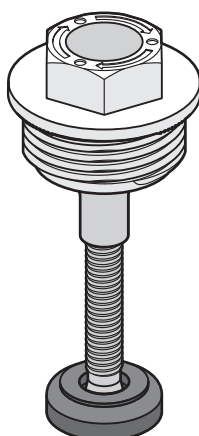
- 電動ドリル(穴あけ用) ●コアドリルビットΦ60mm(床パネル穴あけ用)
- インパクトドライバー(ビス留め用) ●スパナ30mm(ヘッドパーツ締め込み用)
- ドライバー(+)(床高調整用) ●スケール ●水平器 ●ほうき・ちりとり・掃除機等掃除用具

3 同梱物



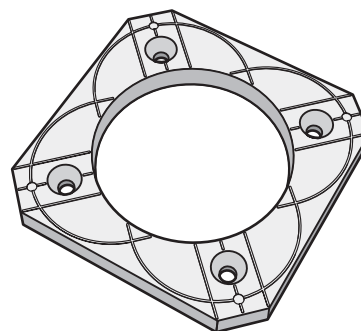
台座パーツ

(標準入数又は、注文端数)



後入支持脚

(標準入数又は、注文端数)



施工用ガイド

(1ケ)

(標準入数の半数未満の注文の際は別売)



接着剤

BA-150 (1ケ)

(標準入数の半数未満の注文の際は別売)

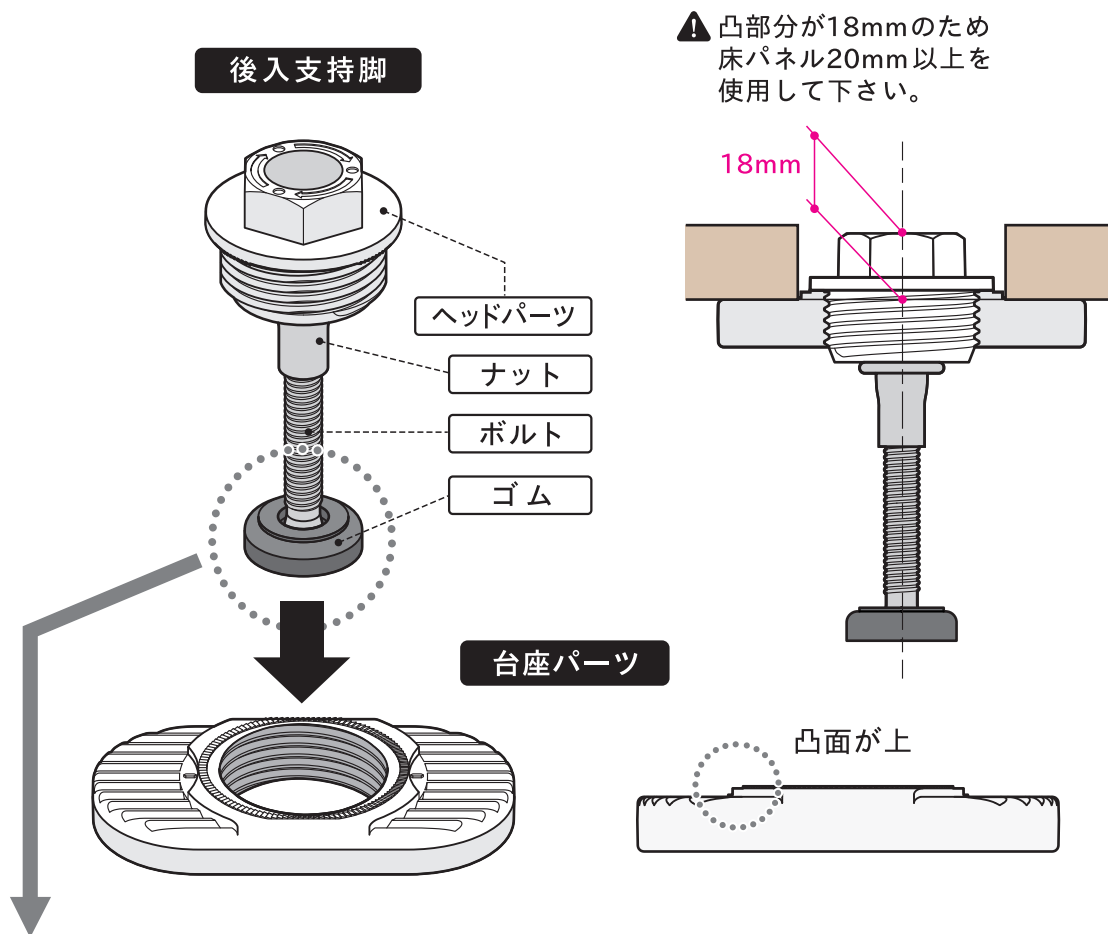


施工・取扱説明書

(1枚)

4 製品仕様

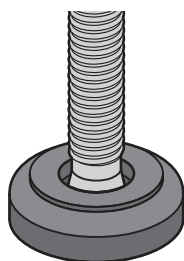
4-1 着脱式支持脚（同梱）



ゴムのタイプにより三種類

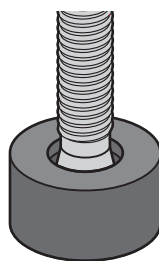
沈み込みの少ない補強用

ADW (WP型ゴム)



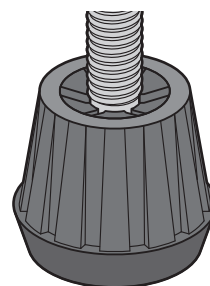
遮音タイプ補強用

ADN (NP型ゴム)



高遮音タイプ補強用

ADY (YPE型ゴム)



床の変位（たわみ）



床衝撃音遮断性能



4 製品仕様

■ 着脱式支持脚 選定基準（間仕切壁下補強の場合）

⚠ 捨張りがある場合は、着脱式支持脚施工後に捨張り施工の手順になります。

		一般部 WP型支持脚		一般部 YPE型支持脚	
※1 設置時	捨張り	捨張りなし	捨張りあり	捨張りなし	捨張りあり
	間仕切壁下補強 着脱式支持脚	ADW	ADW	ADW	ADN

※2 変更時・ 復旧時	捨張り	捨張りなし	捨張りあり	捨張りなし	捨張りあり
	上記補強箇所 の変更後の処理	ADW	取り外し	ADY	取り外し

※1 設置時とは…新築時もしくは改装時に、初めて「着脱式支持脚」を施工する場合を示します。

※2 変更時・復旧時とは…「着脱式支持脚」を施工してある状況下から、間仕切壁位置変更がある場合を示します。

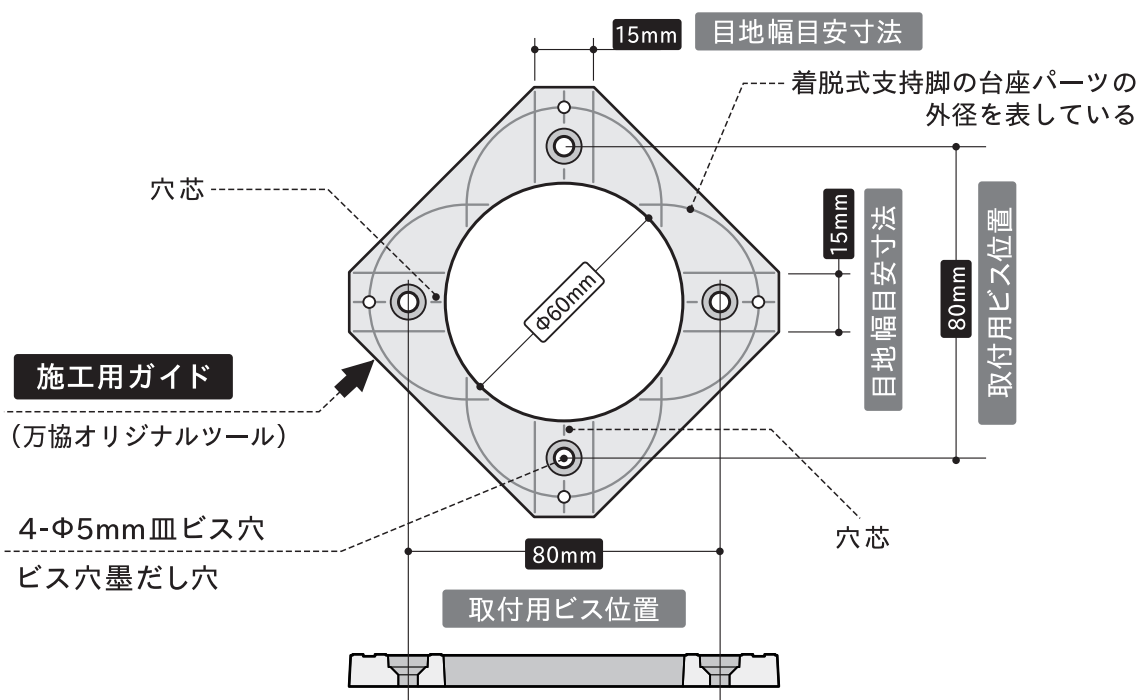
■ 着脱式支持脚 選定基準（重量物下補強の場合）

● 重量物下補強の際は、一般部と同じ型（ゴム）の「着脱式支持脚」をお使いください。

【一般部：WP型→着脱式支持脚：ADW型 / 一般部：YPE型→着脱式支持脚：ADY型】

4 製品仕様

4-2 施工用ガイド(専用ツール同梱品) 標準入数の半数以下でのご注文の際は同梱されませんので別途ご購入ください。



4-3 接着剤/BA-150(同梱品)



中ブタを取り、ノズルの先端をカッターで切って使用します。
冬季など低温度・低湿度のときは硬化しにくい場合があります。

万協フロアー専用の接着剤をご使用ください。

-  標準入数の半数以下のご注文の場合は同梱されませんので別途ご購入ください。
-  使用の際は換気をよくしてください。誤って目に入れたり飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けてください。

4-4 ビス(別売/市販品)

着脱式支持脚取り付け及び施工用ガイドの仮固定には、ビスを使用します。

- 支持脚取付用(2本-2ヵ所) 半ネジフレキΦ3.8×32mmビス
(推奨品: WAKAI コーススレッド ステンレス フレキ 半ネジ)
- 施工用ガイド仮固定用(2本-2ヵ所) ラップΦ3.5×22mmビス
(推奨品: WAKAI ユニクロ 軽天タッピング ラップ)

-  着脱式支持脚は、釘での施工はできませんので、必ずビスで施工してください。
-  施工用ガイドを仮固定する際にフレキ付ビスを使用しますと、樹脂の取付穴が削れてネジが貫通してしまう恐れがありますので、推奨品(ラップ)をお勧めします。

5 施工手順

5-1 施工を始める前に

- 安全に作業できる環境であることを確認してください。
- 施工工具や同梱物を確認してください。

a 新築時

- 床パネルの施工が完了していることを確認してください。●床高に合った着脱式支持脚であることを確認してください。
- 床下に配管や、その他の物などが無いことを確認してください。●間仕切壁位置に墨だしがされていることを確認してください。

b 改装時（リニューアル・リフォーム等）

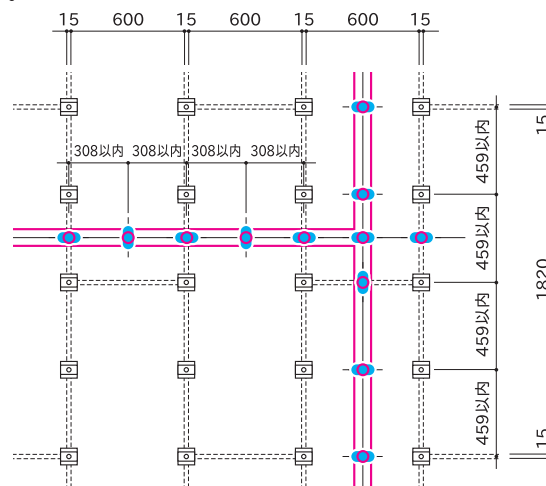
- 仕上げ、捨張り等が撤去されており、床パネルの状態になっていることを確認してください。
- 床下に配管や、その他の物などが無いことを確認してください。●間仕切壁位置に墨だしがされていることを確認してください。

5-2 着脱式支持脚の配置

a 間仕切壁下補強の場合

- 支持脚は、床パネル（600mm×1820mm）の600mm方向は308mm以内、1820mm方向は459mm以内で取り付けます。

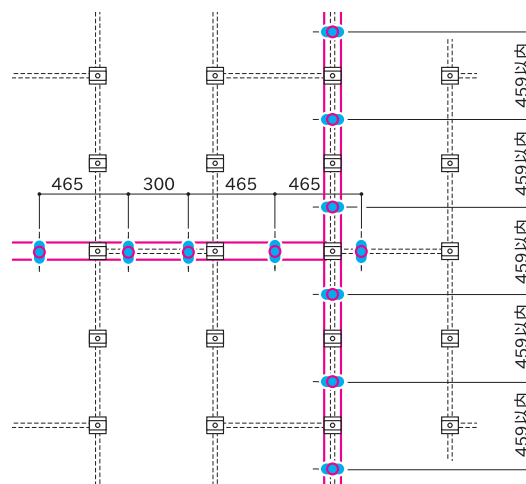
間仕切壁の支持脚配置例



(図-1)

- 間仕切り壁が、床パネルのつなぎ目（目地部）に重なる場合は床パネルの600mm方向は300mm・465mm間隔、1820mm方向は459mm以内で取り付けます。

間仕切壁が床パネルつなぎ目に重なる場合の支持脚配置例



(図-2)

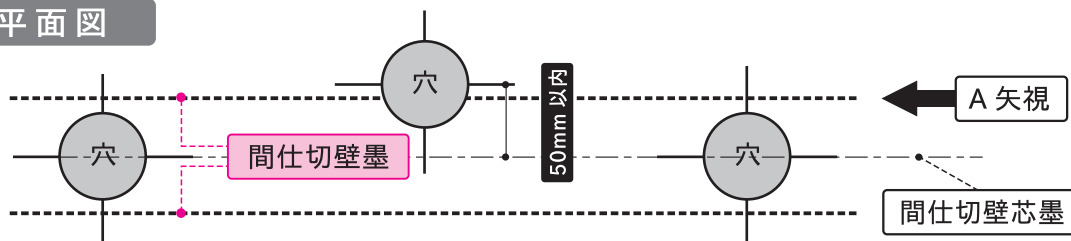
※ 一般部がWP型支持脚の場合は、床パネル長手方向の着脱式支持脚は不要です。

5 施工手順

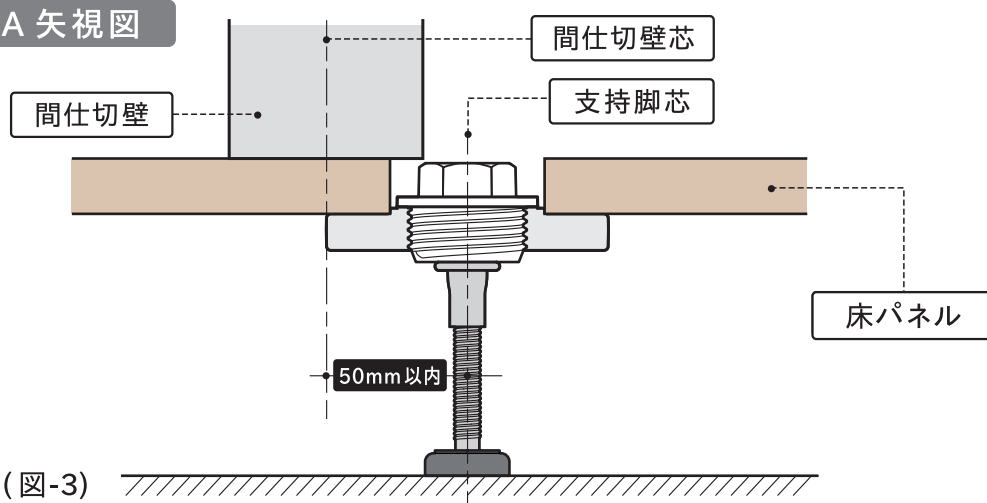
5-2 着脱式支持脚の配置

- 間仕切壁の真下に支持脚が設置できない場合（例えば、配管がある等）に限り、間仕切壁芯から支持脚芯を50mm以内になるように取り付けます。

平面図



A 矢視図

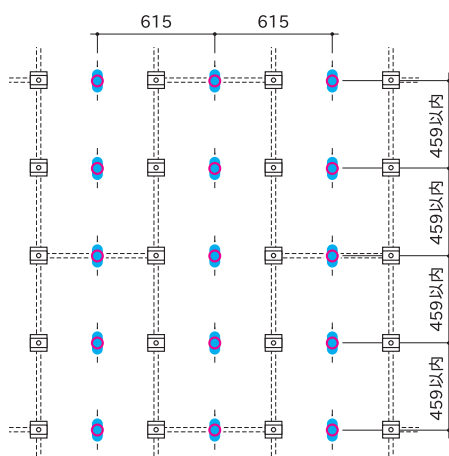


(図-3)

b 重量物下補強の場合

- 支持脚は床パネルの600mm方向は615mm間隔、1820mm方向は459mm以内で取り付けます。

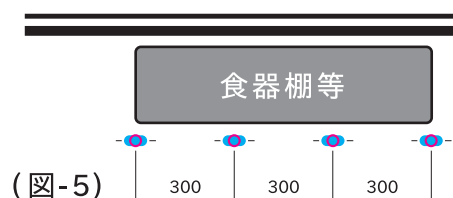
ピアノ・家具等の設置位置が特定できない場合の支持脚配置例



(図-4)

- 支持脚は重量家具等の前方に300mm間隔で取り付けます。

重量家具等を壁際に設置する場合の支持脚配置例



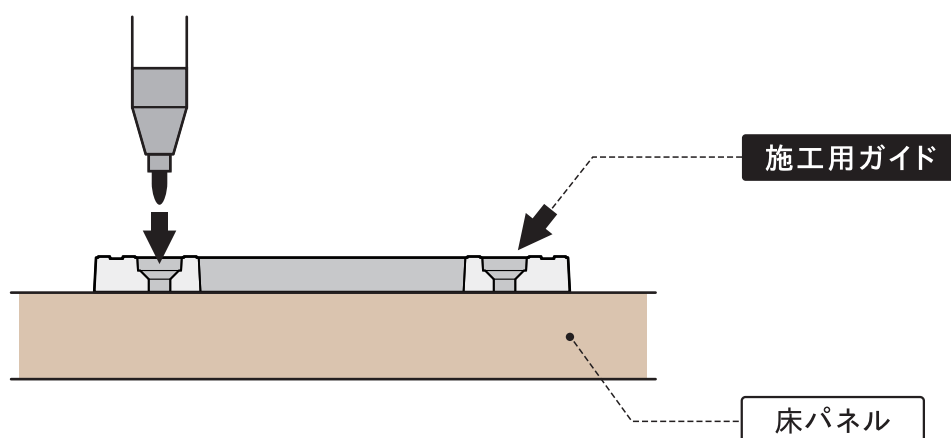
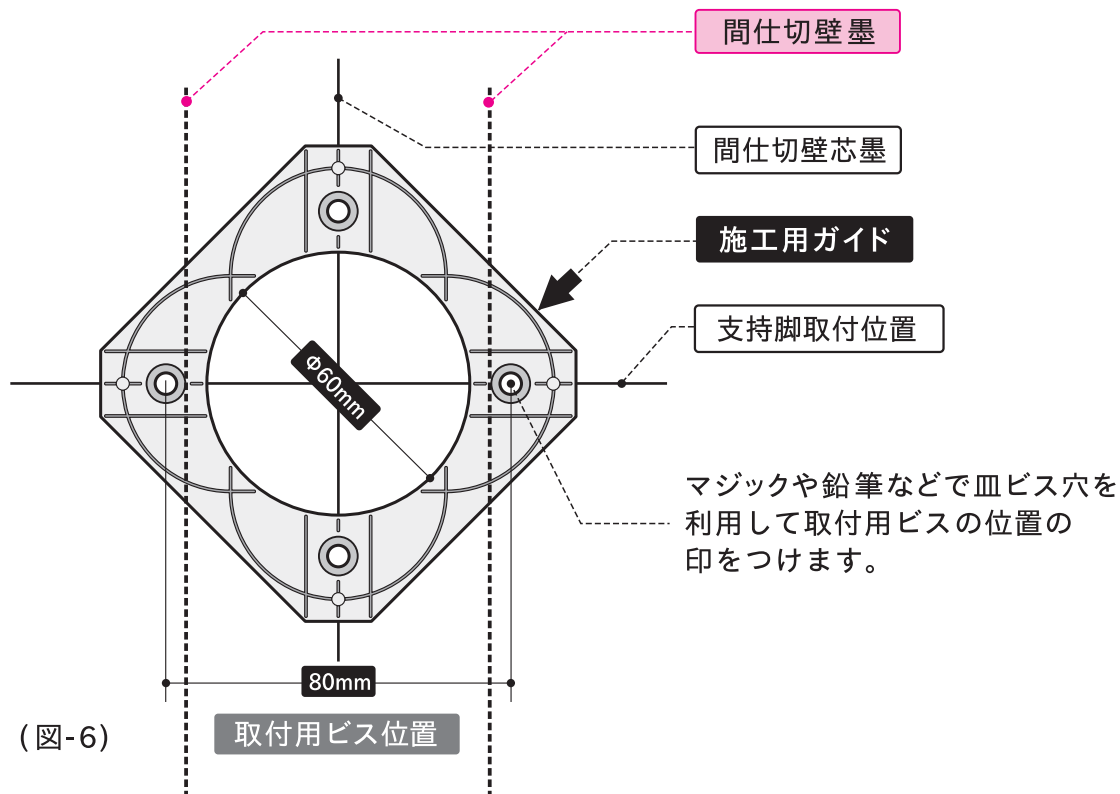
(図-5)

5 施工手順

5-3 位置出し

a 一般部

- 支持脚を取付ける箇所に印を付けます。
- 支持脚を正しい位置に取り付けて且つ強度を確保するため、施工用ガイドを用いて取付用ビス位置 (80mm) の印をつけます。その際、間仕切壁に対して直交させます。



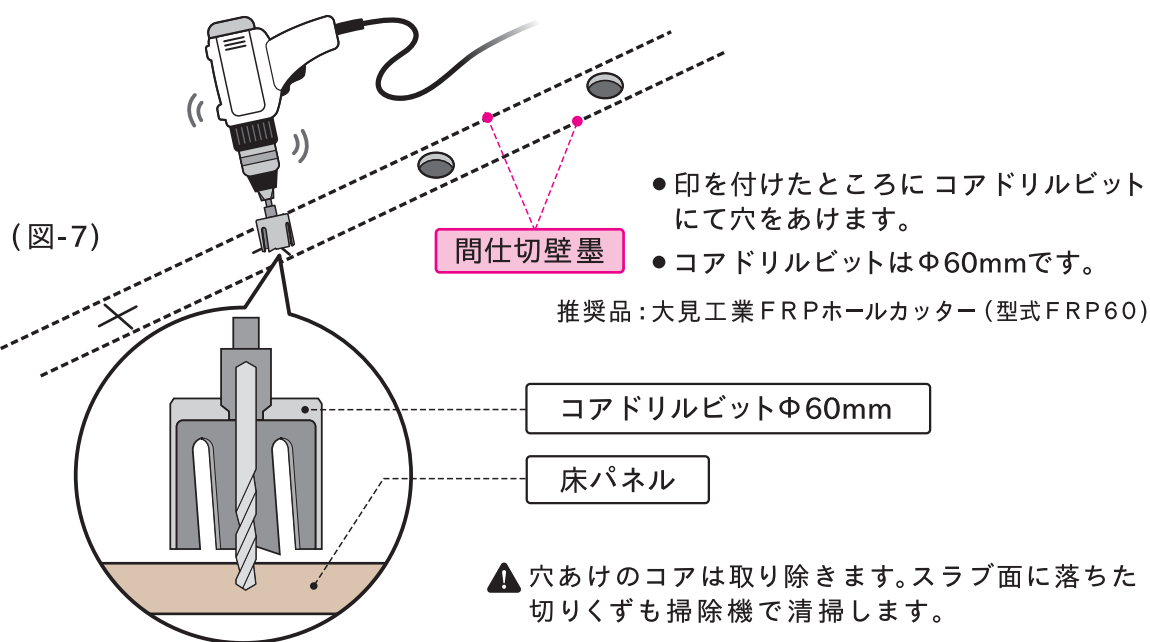
b 目地部

- 目地部は、5-4 bの通り位置出しの延長で穴あけします。

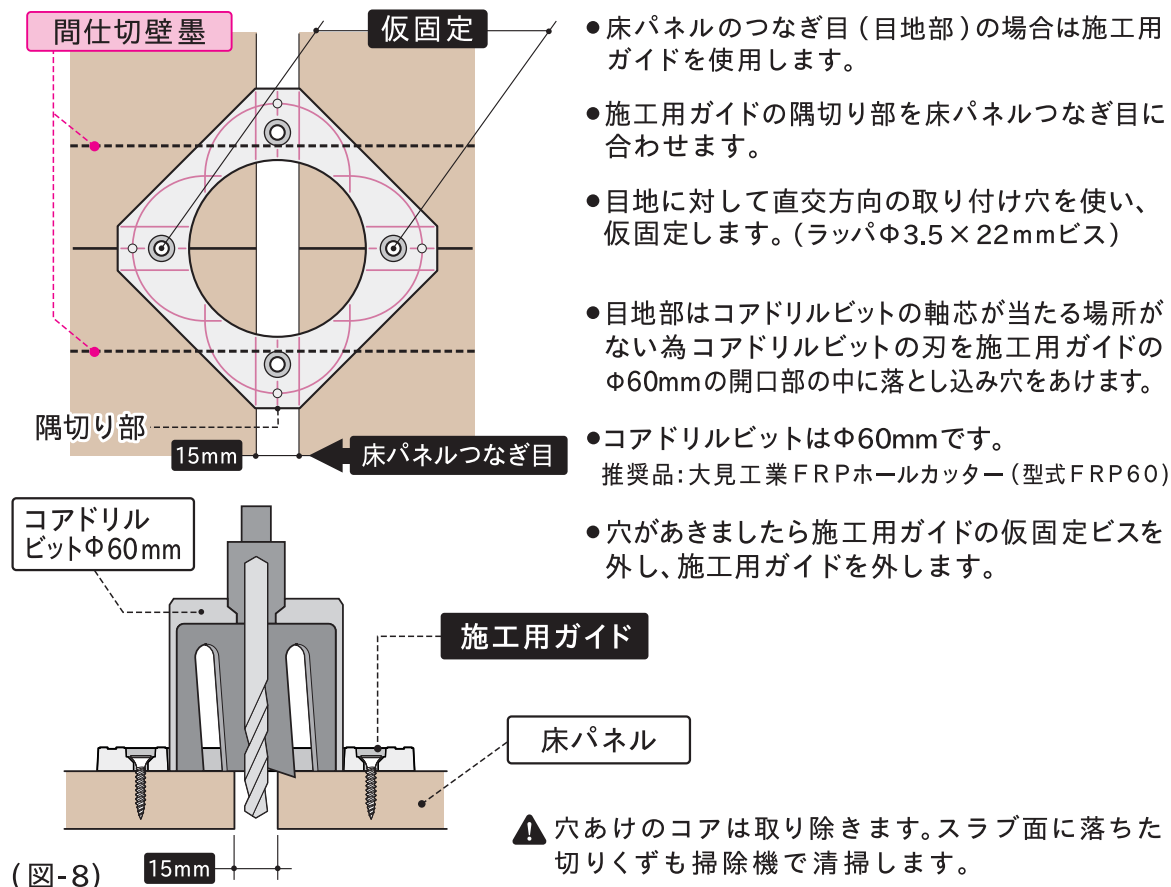
5 施工手順

5-4 穴あけ

a 一般部



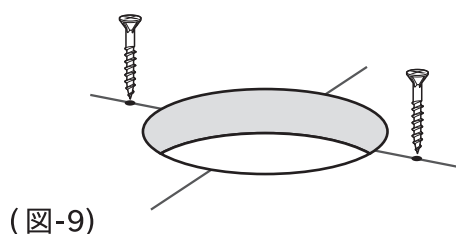
b 床パネルのつなぎ目 (目地部)



5 施工手順

5-5 ビスを仮固定 (半打ち)

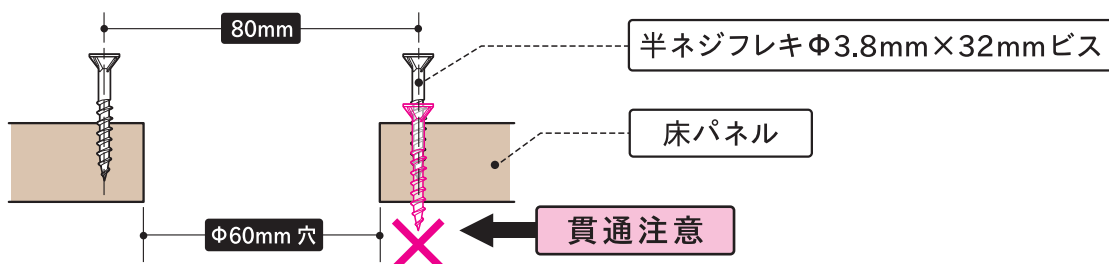
- 5-3 で位置出した位置に半ネジフレキ $\Phi 3.8\text{mm} \times 32\text{mm}$ ビスを2本仮固定 (半打ち) します。



(図-9)

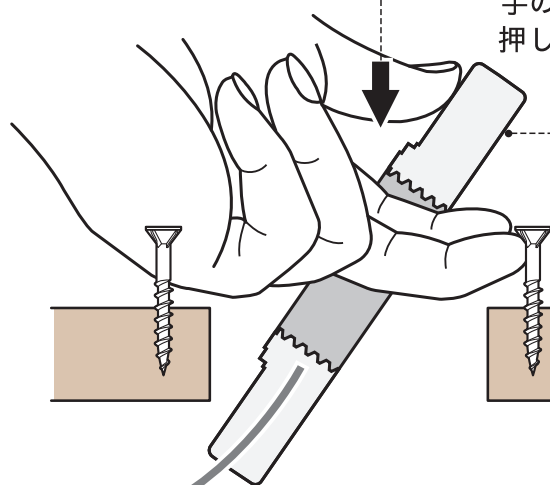
- 目地部は施工用ガイドの仮固定ビスの跡が支持脚固定用ビスの取付け位置になります。半ネジフレキ $\Phi 3.8\text{mm} \times 32\text{mm}$ ビスを2本仮固定 (半打ち) します。

⚠ 仮固定 (半打ち) のビスが、床パネルを貫通しないようにご注意ください。



5-6 台座パーツの挿入

- 台座パーツを図のように持ち $\Phi 60\text{mm}$ の穴に持ち手の甲側から斜めに入れ込み、床パネルの裏側に押し付けます。



⚠ 台座パーツを床下に落とさないようにご注意ください。

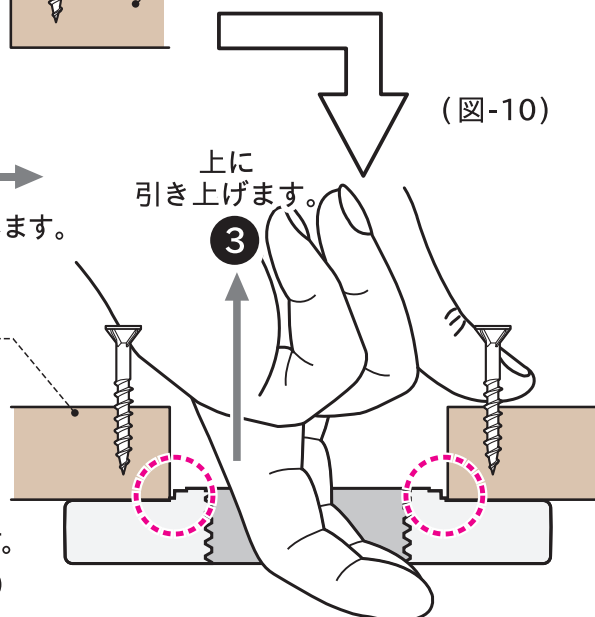
- 1 $\Phi 60\text{mm}$ の穴をくぐらせます。
- 2 穴の中心にくるようにします。

上に引き上げます。

3

- 台座パーツの上面には段差があり $\Phi 60\text{mm}$ の穴にはまり、位置が出せます。

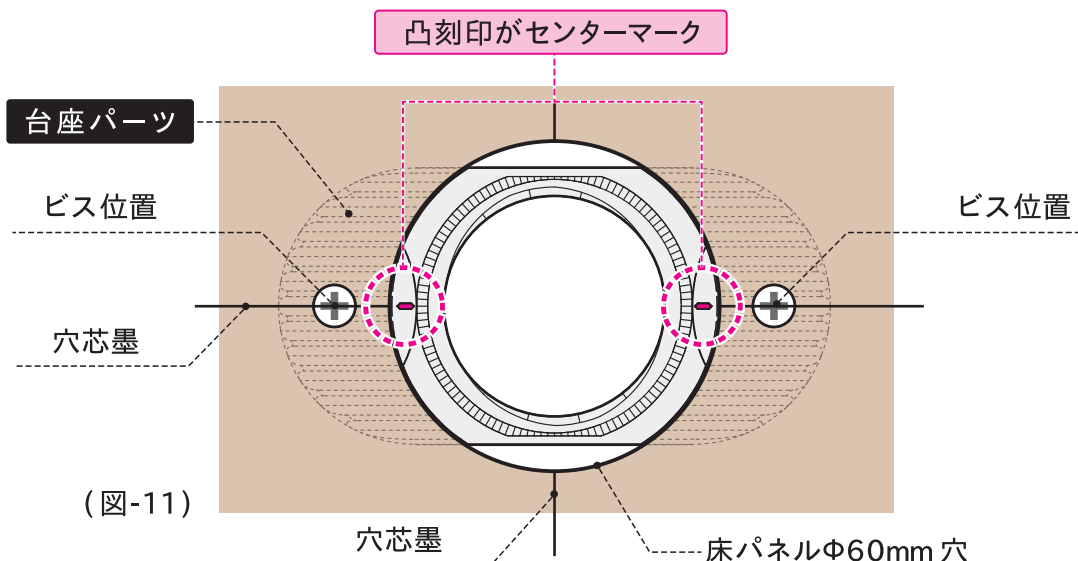
(印部)



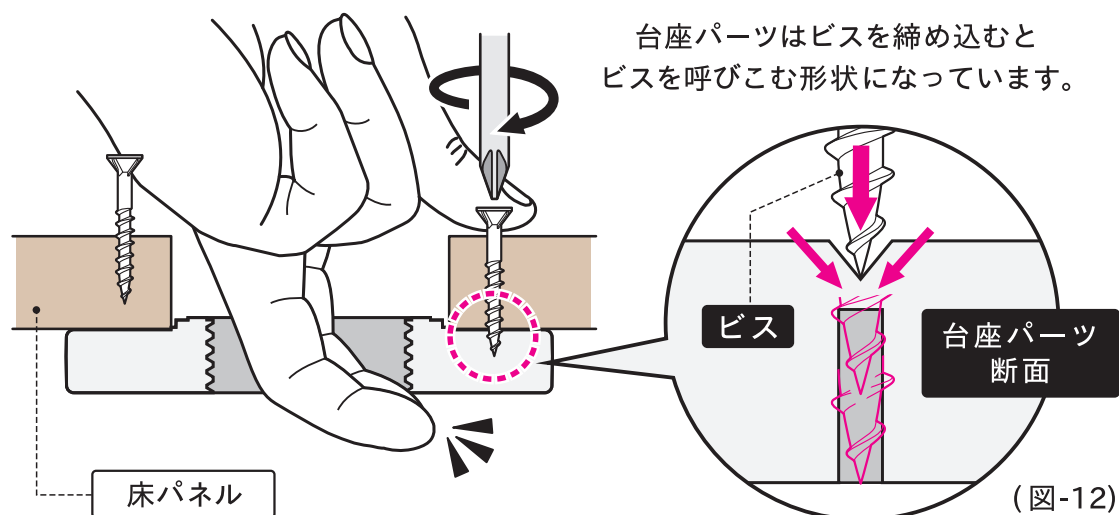
5 施工手順

5-7 台座パーツの位置合わせとビス留め

- 床パネルの芯墨に台座パーツのセンターマークを合わせてインパクトドライバーで仮固定(半打ち)のビスを締めこみます。



- ⚠ ビスが台座パーツに効き始まるまでは台座パーツが床フトコロ方向(下向き)に押されます。しっかり押さえてください。
- ⚠ 台座パーツが床パネル裏側に隙間なく取り付いたか確認してください。
- ⚠ ビスを締め込み過ぎるとビス先端が台座パーツを貫通して押さえている指を傷つける恐れがあります。締め込み過ぎに気を付けてください。

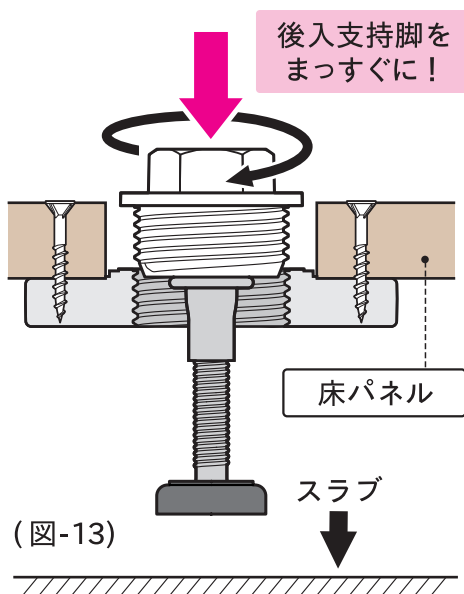


- ⚠ 1本目のビスがきちんと留まりましたら2本目のビスを留めます。その際は、持ち手の向きを変えビスを留める側の床パネルにしっかり押さえつけてビスを締めこみます。必ず2箇所ビス留めをしてください。

5 施工手順

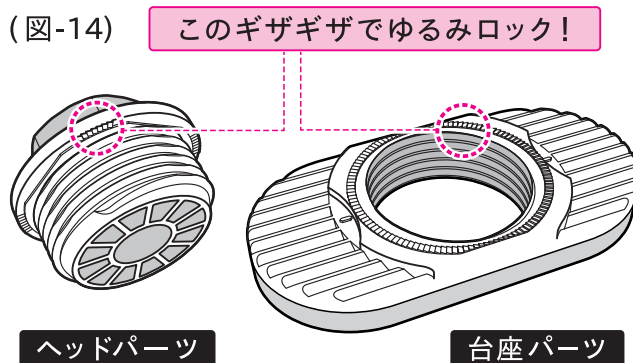
5-8 後入支持脚を回し入れ

- 後入支持脚（ヘッドパーツ+ナット+ボルト+ゴム）を上からまっすぐ入れ、台座パーツに時計回りに回し入れます。（回す方向はヘッドパーツの上に矢印で表示されています。）

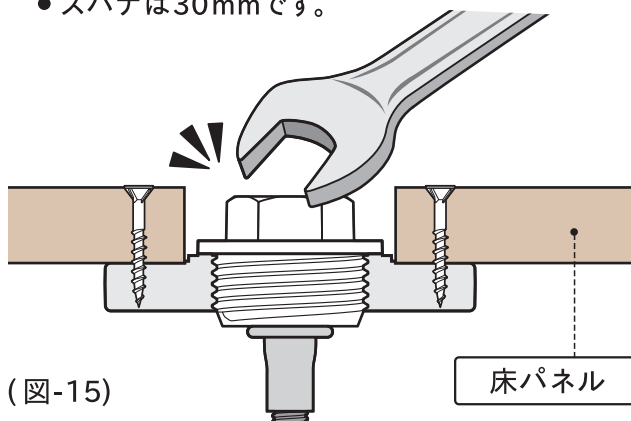


(図-13)

- ⚠ 後入支持脚がスラブにつかえないように、ボルトの出を短くしてから入れてください。
- ⚠ 斜めに入れると樹脂のネジ山が潰れてしまうことがありますのでまっすぐに入れてください。



- 手で回していくと、ゆるみ止めのロックが掛かります。1～2回カチ・カチと鳴ったらスパナで更に1～2回カチ・カチというまで締めこみます。
- スパナは30mmです。

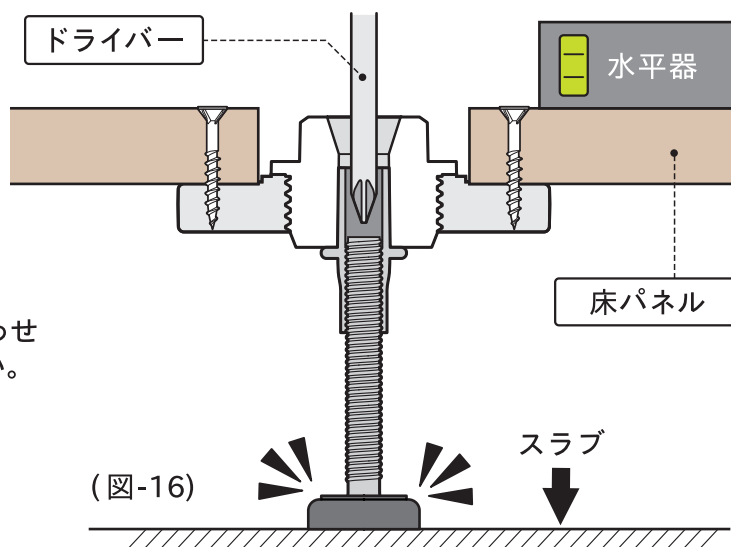


(図-15)

5-9 レベル調整

- 水平器でレベルを確認しながらドライバーで支持ボルトを調整します。

- ⚠ 強く締めすぎてレベルを狂わせないように注意してください。



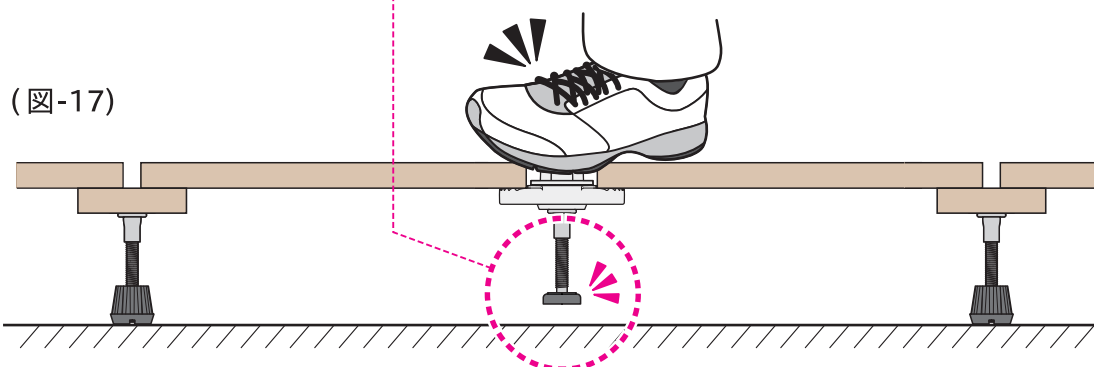
(図-16)

5 施工手順

5-10 床のレベル点検

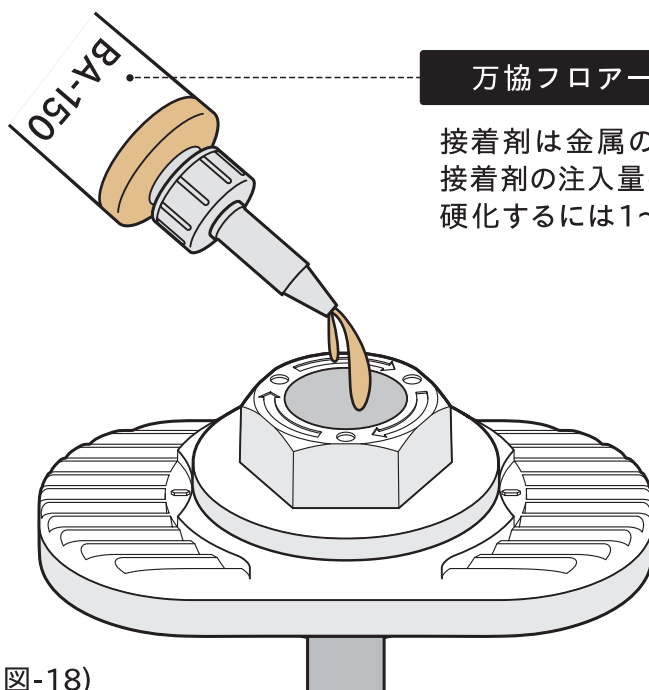
- レベル調整が全て終わったら床の上を歩いて、支持脚の「浮き」がないか確認します。浮いている箇所は、支持脚がスラブに付くまでボルトを回してください。この時、床パネルの水平を保つようにします。

支持脚の上を歩いて、他よりやわらかく感じたら浮いている可能性があります。



5-11 接着剤の注入

- 後入支持脚のボルト部に接着剤 BA-150 を注入します。



万協フローア専用の接着剤をご使用ください。

接着剤は金属のボルトとナットの回転どめのためです。接着剤の注入量の目安は1.5ml/本程度です。接着剤が硬化するには1～2日位かかります。

⚠ ボルト頭部に木くずなどごみがある場合には必ず取り除いてから、接着剤を注入してください。

⚠ 使用の際は換気をよくしてください。誤って目に入れたり飲み込んだ場合直ちに医師の診断を受けてください。

(図-18)

5-12 捨張り及び仕上げ施工

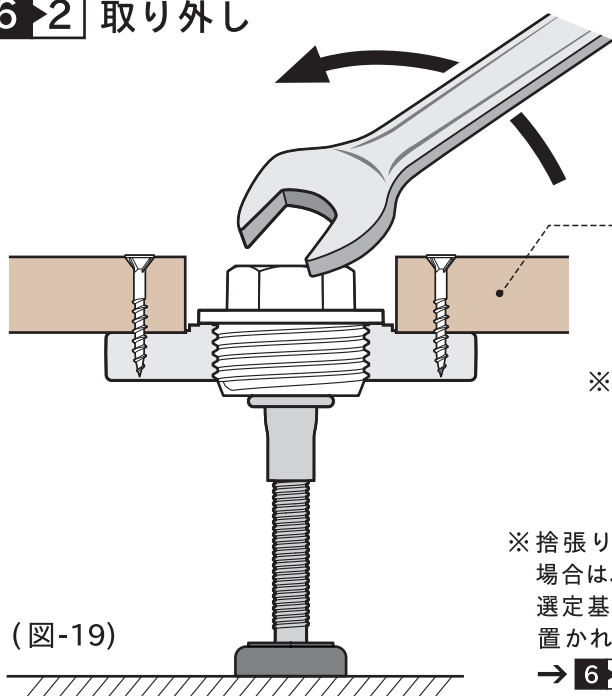
- 接着剤硬化後、捨張りもしくは仕上げ施工をします。

6 間仕切壁変更時や重量物の配置変更時の解体手順

6-1 施工を始める前に

- 仕上げ、捨張り等が撤去されており、床パネルの状態になっていることを確認してください。

6-2 取り外し



- スパナでヘッドパーツの矢印と逆方向に回し、緩めます。
- ヘッドパーツが緩んだら手で回し、後入支持脚を抜き取ります。

※ 間仕切壁変更時や重量物の配置変更時に、床パネルの上に、捨張り+仕上げ施工であれば、台座パーツを取り外します。

→ 6-3 へ

※ 捨張り施工がなく、フローリング等の仕上げ施工の場合は、台座パーツはそのまま残し、4-1の着脱式支持脚選定基準に対応する後入支持脚を取り付けます。重量物が置かれることを想定する場合も同様です。

→ 6-4 へ

6-3 台座パーツ取り外し

- 5-6の逆の手順で(図-10)のように、指で台座パーツをしっかりと押さえて、インパクトドライバーでビスを外します。2本目のビスを外す際には、持ち手の向きを変えて台座パーツをしっかりと押さえて、ビスを外します。ビスが2本外れたら台座パーツを抜き取ります。

⚠ インパクトドライバーでビスを外す際は、台座パーツが床フトコロ方向(下向き)に逃げていきます。しっかりと押さえてください。

⚠ 台座パーツを床下に落とさないようにご注意ください。

6-4 後入支持脚の取り付け

- 残した台座パーツに、新規の後入支持脚を取り付けます。→ 5-8 へ

⚠ 台座パーツを外してしまった場合は、新しい台座パーツを取り付けます。→ 5-5 へ

⚠ 用途に応じて、着脱式支持脚の種類を変える必要があります。その際には、ゴムの厚みが違うので、適応床高さが変わります。用途・高さに応じた支持脚をお選びください。→ 4-1 へ

⚠ 後入支持脚の取り付け前にスラブ面に付着している接着剤は、出来る限り除去してください。

【製品仕様については、予告なく変更する場合がございます。】